

交付運用報告書 2023年8月期（2022年9月1日～2023年8月31日）

i シェアーズ MSCI フィリピン ETF
iShares MSCI Philippines ETF

米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託
米国デラウェア籍法定トラスト

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、i シェアーズ MSCI フィリピン ETF（以下「ファンド」といいます。）の受益証券は、このたび、2023年8月期の決算を行いました。ファンドの投資目的は、フィリピンの株式により構成される幅広いベースの指数に連動する運用成果を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年8月末日

1口当たり純資産価格（基準価格）	24.49米ドル
純資産総額	93,074,348米ドル
2023年8月期（2022年9月1日～2023年8月31日）	
トータルリターン	-6.16%
1口当たり分配金額	0.434200米ドル

（注）1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、取次証券会社までお問い合わせください。

<その他記載事項>

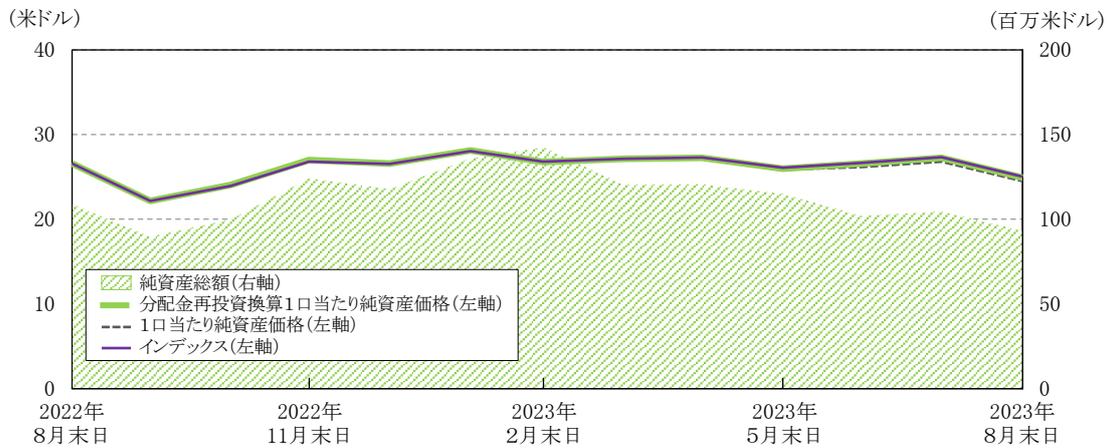
交付運用報告書および運用報告書（全体版）はブラックロック・ジャパン株式会社のウェブサイト（<https://www.blackrock.com/jp/>）の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

トラスト：

i シェアーズ・トラスト

《運用経過》

当期の1口当たり純資産価格等の推移について



2022年8月末日現在の1口当たり純資産価格：26.54米ドル

2023年8月末日現在の1口当たり純資産価格：24.49米ドル

(1口当たり分配金額：0.434200米ドル)

トータルリターン：-6.16%

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注3) ファンドのインデックスは、MSCI フィリピン IMI 25/50 インデックス (MSCI Philippines IMI 25/50 Index) (以下「インデックス」といいます。) です。

(注4) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2022年8月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注5) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、各投資者の購入状況などにより課税条件が異なるため、分配金に対する税金を考慮していません。そのため、最終的な税引後の結果を示すものではありません。

1 口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて

グローバル市場概観

2023年8月31日に終了した年度（以下「当年度」）のグローバル株式市場は、継続的な経済成長と適度なインフレに支えられ、上昇しました。先進国および新興国市場の両方を含む広範なグローバル株式インデックスである MSCI ACWI は当年度において米ドル建てで 13.95% のリターンとなりました。金利上昇や物価上昇の影響に対する懸念にもかかわらず、世界経済は、コロナウイルス・パンデミック後の回復初期に比べればペースは鈍化したものの、成長を続けました。世界のほとんどの地域においてインフレが沈静化し始め、エネルギー価格の下落により消費者への圧力が軽減され、消費者と企業のセンチメントが改善しました。ロシアによるウクライナ侵攻は引き続き欧州やその他の地域での貿易を混乱させましたが、市場の適応により、進行中の戦争による経済的影響は軽減されました。当年度において、石油、天然ガスおよび小麦を含む主要なコモディティの価格は安定化または下落し、世界経済への圧力を緩和しました。

米国連邦準備制度（以下、「Fed」）は当年度中に7回の短期金利引き上げを行い、金融政策を急速に引き締めました。Fed が引き上げ幅を2回縮小したため、引き締めのペースは減速し、2023年6月には、引き締めサイクルが始まって以来初めて利上げを見送りました。しかし Fed はその後、2023年7月の会合で再び利上げを実施し、経済データの監視を継続すると表明しました。Fed はまた、パンデミックの初期段階で市場を安定させるために蓄えていた米国債を減らし、バランスシートの縮小を継続しました。

金融引き締めにもかかわらず、米国経済は引き続き好調であることを示しており、米国株式は上昇しました。米国経済は2022年第3四半期に再び成長に転じ、その後はやや鈍化したものの、堅調な伸びを示しました。消費者は経済の原動力となり、名目ベースでもインフレ調整後でも支出を増加させました。失業率が低水準を維持し、雇用者数が史上最高を記録したことから、消費は堅調な労働市場に支えられました。賃金の伸びは当年度中に鈍化しましたが、労働市場の逼迫は賃金の上昇を促しました。

欧州の株価は、経済成長が緩やかであったにもかかわらず、世界のその他地域の多くを上回り、当年度は力強く上昇しました。欧州の株式は、ウクライナ戦争の初期段階から堅調な回復が見られたことによる恩恵を受けました。この紛争により重要な天然ガスの供給が妨げられたものの新たな供給源が確保され、また暖冬により消費が緩やかであったため価格は下落しました。欧州中央銀行（以下、「ECB」）は、ユーロ導入以来最も高いインフレ率に対応するため、8回の利上げを実施し、保有債券の縮小を開始しました。

アジア太平洋地域の株価は、世界の他の地域に比べ緩やかなペースながら上昇しました。日本は、好調な設備投資と輸出が景気を押し上げ、日本株式を下支えしたため、2022年第4四半期と2023年上半期に再び成長に転じました。しかし、中国株式は経済成長の鈍化によってマイナスの影響を受けました。2022年12月に中国が複数のパンデミック関連のロックダウンを解除したことを受けて、投資家は当初楽観的な見方を示していましたが、その後のパフォーマンスは期待外れとなり、米国との緊張も高まりました。新興市場の株

式は、世界的な経済環境の回復が投資家に安心感を与えたことから、緩やかに上昇しました。他の多くの通貨に対する米ドルの価値の低下と Fed の利上げペースの鈍化も新興市場の株式を下支えしました。

1. 運用の経過

i シェアーズ MSCI フィリピン ETF

2023年8月31日現在のファンド概要

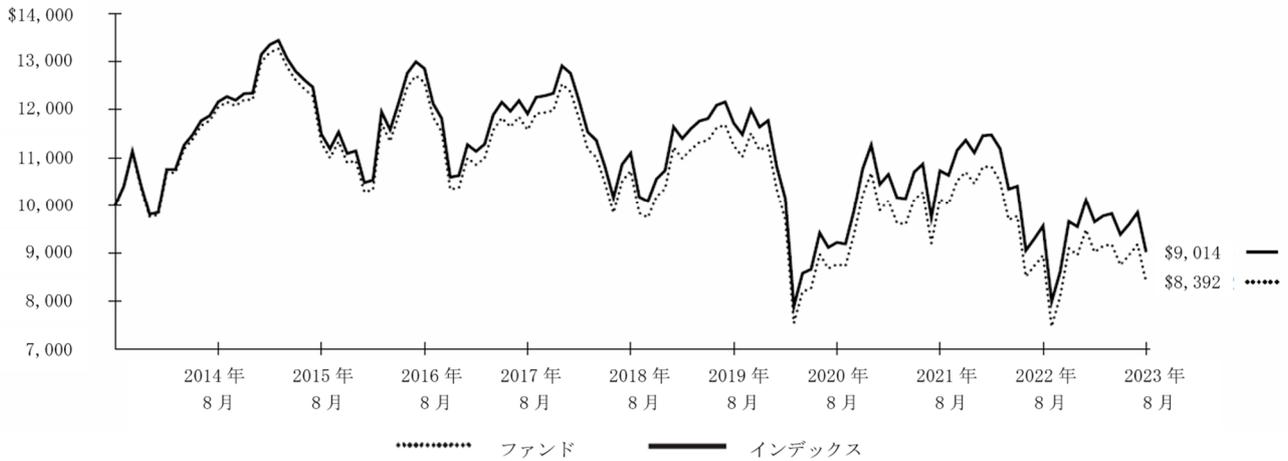
投資目的

i シェアーズ MSCI フィリピン ETF (以下「ファンド」) は、MSCI フィリピン IMI 25/50 インデックス (以下「インデックス」) に代表される、フィリピン株式で構成される幅広いベースのインデックスと同等の投資成果をあげることを目指しています。ファンドは、全体としてインデックスと同様の投資特性を有する、インデックスに含まれる代表的な構成銘柄を組入れています。代表的な構成銘柄の組入れにより、ファンドはインデックスに含まれる銘柄のすべてを保有する場合もあれば、しない場合もあります。

パフォーマンス

	年間平均トータルリターン			累積トータルリターン		
	1年	5年	10年	1年	5年	10年
ファンドのNAV	(6.16)%	(4.79)%	(1.74)%	(6.16)%	(21.75)%	(16.08)%
ファンドの市場	(5.54)%	(4.79)%	(1.55)%	(5.54)%	(21.76)%	(14.49)%
インデックス	(5.70)%	(4.07)%	(1.03)%	(5.70)%	(18.75)%	(9.86)%

10,000 米ドル投資の純資産価額の推移



2020年11月30日までのインデックスのパフォーマンスは、MSCI フィリピン・インベスタブル・マーケット・インデックス（以下「IMI」）のパフォーマンスを反映しています。2020年12月1日からのインデックスのパフォーマンスは、MSCI フィリピン IMI 25/50 インデックスのパフォーマンスを反映しています。

過去のパフォーマンスは、将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。運用パフォーマンスの結果は、ファンドの分配時あるいはファンド受益証券の償還時または売却時に受益証券保有者が支払う可能性のある税金の控除を反映していません。

費用例

実績値			5%の仮説リターンに基づく仮定値			
口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	費用比率 (年率)
2023年3月1日	2023年8月31日		2023年3月1日	2023年8月31日		
1,000.00 米ドル	931.20 米ドル	2.87 米ドル	1,000.00 米ドル	1,022.20 米ドル	3.01 米ドル	0.59%

^(a) 費用は、当期間中の口座の平均価額に、年率換算された費用比率および 184/365（表示されている半年の期間を反映）を乗じたものに相当します。売買委託手数料および金融仲介業者へのその他の手数料など、上記の表や例には反映されないその他の手数料が支払われる場合があります。

ポートフォリオ管理の説明

フィリピン株式は、当年度において下落しました。フィリピン中央銀行は、過去40年超で最も急速な経済成長に伴うインフレを抑制するため、繰り返し金利を引き上げました。5回の利上げにより、中央銀行の政策金利は2008年以来の高水準に達しました。食料品のインフレは2023年1月に14年ぶりの高水準に達していましたが、この金融引き締め政策が価格高騰を抑えるのに役立ちました。インフレは最終的には鈍化したものの、中央銀行の年次目標である年率2-4%を上回りました。一方、金利上昇に伴い、製造業生産高は減少し2年ぶりに縮小しました。経済活動の低下により経済成長は予想以上に鈍化し、同国の株式市場は当年度末に向けて急落しました。

不動産セクターはインデックスのリターンを最も引き下げました。大手モール運営会社や住宅建設会社を含む不動産管理・開発会社の純利益は大幅に増加しました。個人消費の増加を反映して映画館やその他の娯楽施設の需要が増加したことに伴い、小売業者のリース料が増加しました。それにもかかわらず、この業界の株式は、当年度末に向けて市場全体とともに下落しました。また、通信サービス・セクターもパフォーマンスを引き下げました。国内最大手のワイヤレス通信サービス会社の株価は、著しい設備コストに関する調査を受けて急落しました。総合通信サービス業界では、金利上昇によりブロードバンド・サービス提供のための資金調達コストが増加しました。

プラス面として、金融セクターは、銀行に牽引され、インデックスのリターンに貢献しました。同国の堅調な経済成長がフィリピンの銀行業界の業績改善を支え、銀行の資本基盤が強化されました。銀行が顧客預金に支払う利息と融資に課す利息との差額である純利ざやは、金利の上昇に伴い増加し、また大手金融機関による融資残高が増加したことから、収益性が大幅に向上しました。

ポートフォリオ情報

セクター別内訳

セクター	総投資比率 ^(a)
資本財	28.5%
金融	25.9
不動産	18.3
一般消費財	8.0
生活必需品	6.2
公益事業	6.1
通信サービス	4.6
エネルギー	1.5
素材	0.9

組入上位 10 銘柄

証券	総投資比率 ^(a)
BDO Unibank Inc.	10.9%
SM Prime Holdings Inc.	9.7
Bank of the Philippine Islands	6.9
SM Investments Corp.	6.4
Ayala Land Inc.	5.7
Ayala Corp.	5.2
International Container Terminal Services Inc.	4.4
Jollibee Foods Corp.	4.3
Metropolitan Bank & Trust Co.	4.0
Manila Electric Co.	4.0

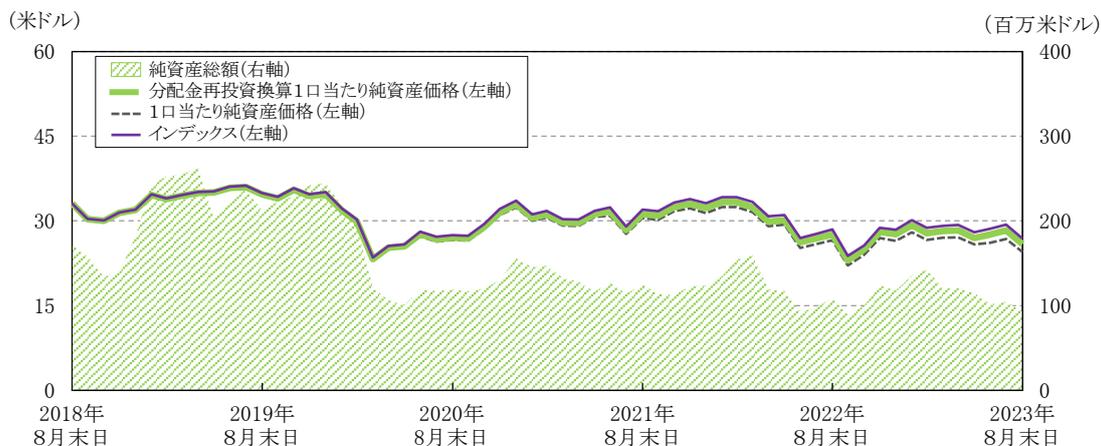
^(a) マネー・マーケット・ファンドを除く。

費用の明細

項目	項目の概要		
	投資顧問報酬	平均日次純資産総額 ^(注)	
投資顧問報酬	0.7400%	20億米ドルまで	ファンドに提供される 投資顧問サービスの対 価
	0.6900%	20億米ドル超、 40億米ドル以下	
	0.6400%	40億米ドル超、 80億米ドル以下	
	0.5700%	80億米ドル超、 160億米ドル以下	
	0.5100%	160億米ドル超、 240億米ドル以下	
	0.4800%	240億米ドル超、 320億米ドル以下	
	0.4500%	320億米ドル超、 400億米ドル以下	
	0.4275%	400億米ドル超	
	その他の費用	純資産総額の0.00%	

(注) 平均日次純資産総額とは、ファンドの属する一定のファンドグループの純資産総額の日々平均残高の合計額を指し、投資顧問会社は上記の料率に従って計算される投資顧問報酬の合計額のうち、ファンドに係る割当額を受領します。

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について



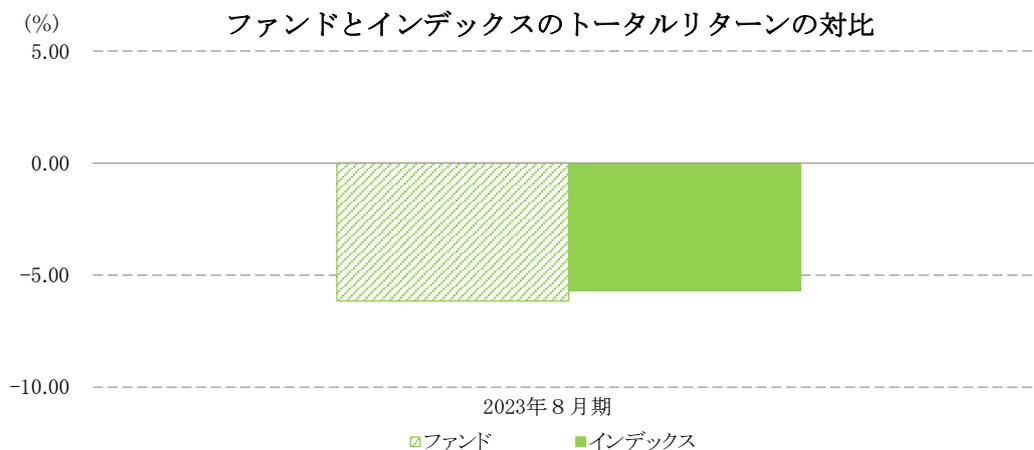
	2018年 8月末日	2019年 8月末日	2020年 8月末日	2021年 8月末日	2022年 8月末日	2023年 8月末日
1口当たり純資産価格 (米ドル)	33.08	34.45	26.63	30.50	26.54	24.49
1口当たり分配金額 (米ドル)	—	0.257845	0.192899	0.287397	0.446593	0.434200
ファンドのトータル リターン (%)	—	4.93	-22.16	15.57	-11.65	-6.16
インデックスのトータル リターン (%)	—	5.64	-21.39	16.44	-10.89	-5.70
純資産総額 (百万米ドル)	172	217	119	125	109	93

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2018年8月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注3) 上記のグラフおよび表のインデックスは、2020年11月30日までは、MSCI フィリピン・インベストナブル・マーケット・インデックスのパフォーマンスを反映しており、2020年12月1日以降は、MSCI フィリピン IMI 25/50 インデックスのパフォーマンスを反映しています。

ベンチマークとの差異について



分配金について

当期（2022年9月1日～2023年8月31日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

（金額：米ドル）

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 ^(注2)
2022年12月13日	26.26	0.123602 (0.47%)	-2.21
2023年6月7日	25.85	0.310598 (1.19%)	-0.11

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

$$\text{対1口当たり純資産価格比率 (\%)} = 100 \times a / b$$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

$$\text{分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額} = b - c$$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2022年12月13日の直前の分配落日（2022年6月9日）における1口当たり純資産価格は、28.59米ドルでした。

《今後の運用方針》

引き続き、インデックスのパフォーマンスと密接に連動した投資成果を提供することを目指し、ファンドの運用を行う予定です。

《お知らせ》

該当事項はありません。

《ファンドの概要》

ファンド形態	米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託 米国デラウェア籍法定トラスト
信託期間	無期限
運用方針	ファンドの投資目的は、フィリピンの株式により構成される幅広いベースの指数に連動する運用成果を追求することです。
主要投資対象	ファンドは通常、少なくともその資産の80パーセント以上をインデックスを構成する有価証券およびこれと実質的に同様の経済的特性を有する投資対象（すなわち、これを表章する預託証券）に、またその資産の20パーセントまでを特定の先物、オプションおよびスワップ契約、現金および現金等価物に投資します。
運用方法	<p>ファンドは、浮動株調整した時価総額加重型の株価指数で、フィリピンの持分証券市場の大型株、中型株および小型株の分野の実績を測定するインデックスに連動する運用成果を追求します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの投資目的を達成するために、インデクシング・アプローチを使用します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの運用につき代表サンプリング指数戦略を使用します。代表サンプリングとは、全体としてインデックスの代表サンプルと類似する投資プロファイルを有する証券の代表サンプルに投資する指数戦略をいいます。</p>
投資制限	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投資を集中させること（すなわち、全資産の25パーセント以上、特定の産業または産業グループの有価証券に投資すること。）。但し、ファンドは、インデックスが特定の産業または産業グループに有価証券を集中させる程度とほぼ同程度に投資を集中させます。かかる制限の目的上、米国政府（その支分機関および系列機関を含みます。）の証券、米国政府証券の担保付き買戻契約および州または地方政府もしくはその政府当局の証券は、いかなる産業の構成員から発行されたものとして解釈されません。 2. 借入を行うこと。但し、（i）ファンドは、これを行わなければ時機を失した証券の処分を要することとなる買戻請求に対応することを含む臨時または緊急目的（レバレッジ目的を除きます。）で銀行から借入を行うことができ、（ii）ファンドは、その投資方針と合致している限り、買戻契約、逆買戻契約、先送り取引、およびこれらと類似する他の投資戦略および技術を履行することができます。（i）および（ii）の取引を行う場合に限り、当該取引からファンドは総資産（借入額を含みます。）の33%パーセント以上を取得してはならないという制限が課されます。当該金額を超過する借入は、適用法に基づき縮減されます。 3. 優先的受益証券を発行すること。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 4. 貸付を行うこと。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 5. 不動産を売買すること。但し、かかる制限は証券もしくはその他の商品を所有した結果として取得すること（不動産事業に従事する会社の証券または不動産もしくはモーゲージにより担保された証券もしくはその他の商品への投資を含みます。）またはファンドがコモディティおよびコモディティ契約を取引すること（ファンドの投資目的および投資方針と合致している限り、為替オプションを含む先物契約および先物オプションを含みます。）を禁止するものではありません。 6. 他の者が発行した証券の引受業務に携わること。但し、ポートフォリオ証券の処分により、ファンドが、厳密には、米国1933年証券法における引受人とみなされる場合を除きます。

分配方針	ファンドは通常、純投資収益からの分配金（もしあれば）を、少なくとも年に一回宣言し、支払います。証券の実現純収益（もしあれば）の分配は、通常年に一回宣言され、支払われますが、トラストは、ファンドに関してより頻繁に分配を行うことができます。トラストの登録投資会社としての地位を維持するため、または、分配されない収益または実現利益に所得税もしくは消費税が賦課されることを回避するために必要または望ましいとトラストがその合理的裁量により決定した場合、臨時分配金を宣言する権利を有します。
------	---

《ファンドデータ》

組入資産の内容（2023年8月期末現在）

組入上位資産

(注) 組入上位銘柄および組入銘柄数は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。組入銘柄の詳細は、運用報告書（全体版）の「IV. 投資有価証券の主な銘柄」を参照ください。

組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分

(注1) ファンドの組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため記載することができません。

(注2) ファンドの組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

純資産等

2023年8月期末	
1口当たり純資産価格	24.49米ドル
純資産総額	93百万米ドル
発行済口数	3,800,000口

2023年8月期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
1,500,000	1,800,000	3,800,000

本報告書に記載の「1口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて」は、ファンドのアンニュアル・レポートの該当部分の翻訳であり、本報告書と原文（英文）との間に相違がある場合には、原文（英文）の内容に従うこととなります。なお、原文（英文）の記載のうち、ファンドに関係しない部分を省略する場合があります。